

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔酒〕（経営者）	・例年2月は1年で最も売上の悪い月であるが、今年は力強さが戻っており、今後に期待が持てる。
	◎	観光名所（従業員）	・当施設の利用客の構成をみると、個人6割、団体4割となっており、団体に占めるインバウンドの割合も約7割と新型コロナウイルス感染症発生前と同じような状況に回復している。現在の利用客数は新型コロナウイルス感染症発生前の水準には及ばないものの、ここ最近の増加率から、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に回復することが期待できる。
	◎	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・予約が順調に推移しており、今後、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しなければ、輸送量は順調に増加することになる。
	○	商店街（代表者）	・3年ぶりに開催された冬の恒例イベントには多くの観光客が訪れた。家族連れの国内観光客が多くみられたほか、インバウンドも新型コロナウイルス発生以前の中心であった中国人が大幅に減っている一方で、それ以外の国から新型コロナウイルス発生以前を上回る集客がみられた。また、アジア圏からの観光客が多かった今までは違い、欧米からの観光客が多かったことも特徴であった。イベント終了後も観光客の好調な入込が続いており、今後の回復を期待している。
	○	スーパー（店長）	・5月8日に新型コロナウイルスの感染症法上の分類がこれまでの2類相当から5類に移行することに伴って、景気も上向くことになる。
	○	スーパー（店長）	・マスク着用のルールが緩和されることで、メイク用品を中心に化粧品関連での伸びが期待できる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・これから春に向かっていくにつれて、客の動向が変わることになる。今後については、来客数の増加が見込まれる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行することで、様々な場面で行動制限が緩和されるようになり、それに伴って景気も上向くことになる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・スピード感としてはかなり遅いものの、アフターコロナに向けた体制に間違いなく向かっていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・国内向けの生産量が引き続き増加することから、今後の販売量は上向くことになる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・半導体の生産が回復し、サプライヤーにも供給されるようになることで生産が前倒しになり、受注残の売上が立つようになる。受注量も回復傾向にあることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・決算の見通しはまだ立っていないが、売上が改善傾向にあるため、今後の景気は良くなる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行することで、今後、来客数がますます増えることになる。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	・インバウンドからの問合せが増えていることから、このまま海外からの入国制限が緩和されていけば景気は好転する。ただ、当施設の人手不足は解消に至っていないため、需要に応え切れない状態が続くことが懸念される。
	○	旅行代理店（従業員）	・4月は統一地方選挙があるため、人の動きが良くないと見込まれるものの、ゴールデンウィーク以降は新型コロナウイルスの感染症法上の分類がこれまでの2類相当から5類に移行することで国内及び海外からの観光客が増加し、観光関連産業が活性化することになる。
	○	旅行代理店（従業員）	・全国旅行支援や入国制限の緩和により、人の動きが活発になっている。2019年の水準までは回復しないとしても、今後も少しずつ人の動きが活発になると期待している。
	○	タクシー運転手	・送別会などが活発に行われていることから、ウィズコロナのフェーズに入ったとみられる。乗務員不足は顕著だが、まだ伸び代がある。
○	タクシー運転手	・観光客などにも多少の動きが出てくるとみられることから、今後の景気はやや良くなる。	
○	通信会社（企画担当）	・コロナ禍からの脱却に伴って、出張販売先も含めた来客数がますます増えると期待できる。新入学、新生活の時期も重なるため、前年以上の伸びを期待している。	

○	美容室（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響が収まる雰囲気が出ており、客の行動が活発化している。客の来店頻度も上向いており、それに伴って売上も増加している。このままの状況で推移すれば、今後の売上は増加することになる。
□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染症法上の分類がこれまでの2類相当から5類に移行することになるが、地元百貨店閉店の影響が大きく、現在のところ、地域住民による経済活動が活発化したり、来街者が増加するといった判断材料はない。ただ、他都市の状況をみると、インバウンドの動きが好転していることから、観光客の増加などがあれば、景気が上向き可能性もある。
□	商店街（代表者）	・物価高の影響がどの程度出てくるか分からない。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・2月の売上は、特にアジアからの観光客が増加したことで1年前と比べて467.8%、2年前と比べて398.5%、3年前と比べて150.6%、4年前の新型コロナウイルス発生以前と比べて95.8%となっている。今後も観光客は確実に回復すると見込めるため、景気はやや良くなる。
□	一般小売店（経営者）	・北海道においては、これから電気料金が引き上げられることが予定されているため、電気を使う商材をメインに販売している当社としては厳しい状況が予測される。
□	百貨店（売場主任）	・中国人観光客が増えるなどのトピックがない限り、当面は今のトレンドが続くことが見込まれる。
□	百貨店（販売促進担当）	・マスク着用のルールなどが緩和されるのに伴って、来街者は増えていくとみられるが、物価の上昇や光熱費の引上げに歯止めが掛からない状況であるため、今後の消費マインドは期待ほど上向かない。
□	スーパー（企画担当）	・電気料金などのエネルギーコストの上昇は一服感があるものの、今後も景気は変わらない。今後、暖房の使用頻度が低下することになるが、現在の節約生活はそのまま維持されることになる。
□	コンビニ（エリア担当）	・物価の上昇に伴い、賃金上昇などの動きが加速すると、経済が循環するようになり、景気も良くなっていくと見込まれるが、現在はそうした兆しもないことから、今後も様子見のままで推移する。
□	コンビニ（店長）	・光熱費が上がっていることから、客がし好品を買ったり、ついで買いをする余裕がないようにみえる。買う商材を吟味しているのか、店内の滞在時間が長くなっている。
□	衣料品専門店（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染症法上の分類が2類相当から5類に移行すること、マスク着用が個人の判断となることから、今後、人の動きが活発になることが見込まれる。その反面、感染拡大が危惧されること、光熱費の引上げや物価の高騰が続いていることから、全体的にはそれほど景気は変わらない。
□	家電量販店（店員）	・今後については、新型コロナウイルス感染症の収束が期待できること、春需要に期待できることから、景気はやや良くなる。
□	乗用車販売店（従業員）	・特に人気の車種において納期が長くなっていることから、今まで景気の様子をみて車の買換えを控えていた客が早めの行動を取るようになっている。
□	乗用車販売店（従業員）	・今後については、環境の変化などが起こらない限り、客の購入意欲も変わらないとみられるため、景気も変わらないまま推移する。
□	自動車備品販売店（店長）	・食品を始めとした物価の高騰、光熱費の引上げなど、生活に伴うコストが上昇しており、これらの価格が以前の状態に戻らない限り、客の消費動向は変化しない。特にカー用品は消費の順位としては優先度が低いため、現状維持か落ち込むことになる。
□	住関連専門店（役員）	・商材の値上げが続いていることで、客の購買意欲が低下している。
□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・様々な商材が春に向かって、値上げラッシュになる流れにあることから、客の購買意欲がそがれる不安がある。客に対する健康に関する啓もう活動をより密にかつ正確に伝えていくことが求められる。
□	高級レストラン（スタッフ）	・先行きについては不透明で分からない。外国人を市内でよく見掛けるが、どういった店が繁盛しているのか、よく分からない。レストランは人手不足の店が多いが、求人広告も出しておらず、少ない人数で苦慮しながらやり繰りしている。

□	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の影響が収まりつつあるが、全国旅行支援が継続されないことになれば、ゴールデンウィークは前年並みの入込となる。また、マスク着用が自己判断となるが、感染リスクが完全に消えないのであれば、一層不透明な状況となる懸念がある。
□	観光型ホテル（経営者）	・これから閑散期を迎えるが、海外との航空路線の就航数が増加していることから、国内客の減少を補えるのではないかと期待している。
□	旅行代理店（従業員）	・全国旅行支援が終了することで反動減が見込まれるが、新型コロナウイルスが5類感染症に移行することに伴ってこれまでの制限が緩和されることになり、旅行者が増加することも期待できるため、景気は現況のまま横ばいでの推移となる。
□	タクシー運転手	・例年3月までの雪のある時期はタクシーの利用が多いが、4月以降はタクシーの利用が極端に減ることになる。ただ、今年は行動制限がなく、5月になると新型コロナウイルスの感染症法上の分類が2類相当から5類に移行することから、4月以降もタクシーの利用が大きく減少するとは考えにくい。
□	タクシー運転手	・利用客から、物価の高騰や公共料金の引上げの影響でタクシーの利用を少し控えなければならぬとの話を聞く。一方、インバウンドの予約状況に変化がみられないこと、観光客が夜間に利用する傾向が出ていることなどから、全体的には景気は変わらない。
□	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているが、今後、どのように変化していくか、あと3か月程度は様子を見ていく必要がある。
□	通信会社（エリア担当）	・通信キャリアの戦略次第であるため、先の見通しが立たない。
□	通信会社（エリア担当）	・今のところ、改善傾向がみられないため、先行きも不透明である。
□	住宅販売会社（経営者）	・住宅着工数が増えておらず、むしろ減りつつある。また、木材の価格が徐々に下がっていることで、下値を模索する状況になっている。
□	住宅販売会社（経営者）	・建築価格の高騰により分譲マンションの価格上昇傾向が続いているが、その代替となる中古マンションの価格高騰と供給不足もあって、分譲マンションの需要は底堅く推移している。今後も中古マンションの供給不足は続き、価格の高騰が続くとみられるほか、分譲マンションの供給戸数も増加が見込めないことから、分譲価格が下がるとは考えにくく、分譲マンション市場は大きく拡大することはないものの、安定して推移することになる。
□	住宅販売会社（従業員）	・物価上昇を上回るような賃金の上昇がみられるかどうかで今後の景気は変動することになる。
▲	商店街（代表者）	・物価上昇に追い付くような賃金の上昇がみられるまで厳しい状況が続く。
▲	スーパー（店長）	・物価の高騰、新型コロナウイルス感染症の影響、ウクライナ情勢の影響などが今後も見込まれるため、景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・この春からの値上げは前年以上になることが確実視されており、食料品を中心とした日用品の節約ムードがますます高まることになる。行楽や観光への支出が増加傾向にあることもマイナスである。
▲	スーパー（役員）	・食料品の値上げが半年くらい先まで予定されていることから、今後、客の節約志向がますます強まることになる。
▲	スーパー（従業員）	・値上げの動きが継続していることで、客単価が上昇傾向にあるものの、来客数は減少している。ディスカウント店などへの流出が増加しているとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。また、人件費の増加、エネルギーコストの上昇、取引先からの値上げ要請など、経費の増加が続いていることもマイナスである。
▲	コンビニ（エリア担当）	・電気料金や人件費などの営業経費の上昇分を売上で吸収し切れない店があることに加えて、売上が伸びていない店もみられることから、今後の景気はやや悪くなる。

	▲	コンビニ（エリア担当）	・電気料金などの光熱費が上がっていることで、消費が落ち込むことを懸念している。また、当業界は新型コロナウイルスの影響で売上、来客数が増加したため、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類になったときに、これまでの増加分が減少に転じることも懸念される。
	▲	衣料品専門店（店長）	・客のスーツ衣替え需要が少ないなど、財布のひもが固い傾向に移っていることが明らかなことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・これから期末に向けての対応が出てくる時期だが、納車が後ろ倒しになっている影響もあって、今よりも厳しい状況となる。部品などの入荷遅れが解消しない限り、売上の見通しも立たない。
	▲	その他専門店〔造花〕（店長）	・景気が良くなるような材料がみられない。人の移動が活発になっているものの、地域の消費拡大につながるかは不透明である。
	▲	旅行代理店（従業員）	・全国旅行支援が終了することを前提に考えると、現在よりも販売量が減ることが懸念される。
	▲	美容室（経営者）	・物価の上昇に対する客の警戒感、失望感は強く、今後、美容関係の消費にも悪影響が出てくることを懸念している。
	▲	美容室（経営者）	・物価の高騰と光熱費の引上げにより、今後の景気はやや悪くなる。
	×	スナック（経営者）	・残念だが、新型コロナウイルス感染症の影響はまだ残っている。少しでも景気が良くなってほしいと願っている。
	×	タクシー運転手	・政府がマスクの着用方針を転換したとしても、消費意欲を喚起するような即効性はないとみられる。今後も外出や外食を控える傾向は続くことになり、景気回復にはつながらない。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	農林水産業（経営者）	・前年のりんご収穫量が見込みよりも悪い見通しとなっている。3月から4月にかけては繁忙期になるとみられるが、5月以降の見通しが立たない状況にある。
	○	金属製品製造業（従業員）	・今後、住宅金利が上がり、駆け込み需要が出てくるとみられる。今のところ原材料価格は高止まりしているが、動きが落ち着いていることから、景気が上向いてくると期待している。また、コロナ禍からの脱却に向けて、人の動きが活発になっていることもプラスである。
	○	建設業（経営者）	・今後については、受注が徐々に進み、工事の稼働量が上がることになる。ただ、土木工事は例年と同様のパターンが見込まれるものの、建築工事の動向が余りみえてこないことが気掛かりである。
	○	建設業（役員）	・受注済みの次年度繰越し工事と公共工事の入札状況から、新年度はフル稼働状態でのスタートが見込まれる。ただ、賃上げに伴う人件費の上昇と原燃料価格の高騰を吸収できるだけの収益力向上を見込めるかが課題である。
	○	通信業（営業担当）	・コロナ禍からの回復に向けた動きが本格化することで、今後、人の活動がより一層活発になる。また、半導体企業の進出という道内産業界では久しぶりの明るいニュースもあり、企業の投資意欲の盛り上がりにも期待できる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行されることでインバウンド需要の回復、堅調な建設投資などが期待でき、今後、広範囲にわたって経済回復に向けた動きが活発になる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・資材価格の高騰などの不安要素もあるものの、人の動きが徐々に正常化に向かっていることから、今後の景気はやや良くなると期待している。
	□	食料品製造業（従業員）	・景気が変わるような案件が特段見当たらない。
	□	食料品製造業（従業員）	・3月1日から現在の商材を終売し、内容を少なくした商材をリニューアル販売する予定となっている。リニューアル後の商材が客に受け入れられるかは分からないが、取引先からは余り販売量が変わらないのではないかと意見が出ているため、今後も景気は変わらない。
	□	輸送業（従業員）	・商材の値上げなどもあり、受注量が減少傾向にある。また、燃油などの価格も高止まりしているため、回復の兆しが無い状況にある。

		金融業（従業員）	・各種商材、サービスなどの値上げラッシュによる消費マインドの低下が見込まれる。また、道内企業の賃上げ動向が不透明であり、実質購買力の低下も懸念される。一方、コロナ禍でのマスク着用ルールの緩和が示されたことから、国内内容及びインバウンドの一層の増加が見込まれ、観光関連での景気底上げが期待できる。
		司法書士	・今年6月に電気料金の値上げが予定されている状況であり、景気回復の原動力となるものが不在である。また、春闘による賃上げも物価上昇の後追いであることから、景気回復には程遠い感がある。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・受注量や受注条件に大きな変化が感じられないことから、今後も景気は変わらない。
		建設業（従業員）	・職人不足や材料の価格高騰による建設単価の上昇に加えて、ガスや電気などのインフラのコストアップもあり、建設単価の高騰にますます拍車が掛かることになる。
		輸送業（支店長）	・運輸関係の業界では、春以降いよいよ2024年問題に対する各種料金の値上げが進むとみられているが、各社において具体的な対応案を検討している段階であり、客への改善要請が遅れる分、各社の利益が一時的に下がることになる。
		司法書士	・食料品などの生活必需品の値上げが続いており、今後も値下がりする見通しが立たない。大企業の賃上げや国や自治体による支援制度など、物価高騰への対策も行われているが、余り効果が見込めないことから、今後も景気は変わらない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・コスト高が続いており、利益が出にくくなっていることから、今後の景気はやや悪くなる。
		×	—
		—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・景況感について、新型コロナウイルス感染症の影響によるものから、物価高の影響によるものに移ってきているものの、景気回復に向けた動きは確実に進んでいる。先行きが見通せるようになることで計画的な採用が可能になるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は1年10か月連続で前年を上回っており、全体としては回復の兆しがみられる。ただし、産業や業種によってその度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況と経済活動、消費行動の状況によっては先を見通せない状態となることも懸念される。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・全体的な新卒者の採用枠が若干回復しており、景気を持ち直しが感じられる。
	□	人材派遣会社（社員）	・人材のニーズは今後も堅調にすると見込まれる。新型コロナウイルス感染症の終息を見据え、事業拡大に移行する企業が増えることも見込まれるため、人材ニーズは高止まりすることになる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・小規模事業所において、スキルとキャリアに優れた人材の確保が厳しさを増している。企業は人なりの考えを持ち続けることが難しくなりつつある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴って、ふだんの日常を取り戻しつつあるが、物価高の影響で先の見通しが立ちづらくなっている。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・6月からの電気料金引上げを控えて、求人広告費を抑える動きが出てくるのが懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・新規求職者数が前年から増加していること、原油や原材料の価格が高騰していることなど、事業環境の悪化を招く要因は多いものの、有効求職者数は6か月連続で減少している。今のところ、業況堅調な事業所からの求人もあって新規求人数は高水準で推移している。
	▲	職業安定所（職員）	・あらゆる物が値上がりしているが、それに賃金上昇が追い付かない状況が続くことから、今後の景気はやや悪くなる。
	×	—	—